

下館ロータリークラブ会報

SHIMODATE ROTARY CLUB WEEKLY REPORT 2023-24

第 02643 号 発行日 令和 5 年 9 月 13 日



世界に希望を生み出そう

本日のプログラム

外部卓話
下館青年会議所理事長



次週のプログラム

会員卓話 堀江俊一 会員
「SDG s Goal14 の意義について」

会長／宮田 憲一 副会長／神山 芳子 幹事／堀江 勤 会長エレクト／宮田 憲一

例会 毎週水曜日 12:30 ダイヤモンドホール (〒308-0847 茨城県筑西市玉戸1053-4 ☎0296-28-8511)

ホームページ <http://www.shimodate-rc.gr.jp> Eメール shimodate@ri2820.jp



前例会報告 第3029回 2023/9/6日(水)

会 長 挨 拶 宮 田 憲 一 会 長



みなさん、こんにちは。

先日、8月27日日曜日、結城市民文化センターアクロスで開催されました、神山芳子バレエスクール35周年記念パフォーマンスにおいて、ポリオ根絶募金活動が実施しました。

衛星クラブの皆さんにもお手伝いいただきまして、募金額の合計は61,747円となりました。ご参加いただきました皆様、大変お疲れさまでした。ありがとうございました。

また神山パスト会長が歩んでこられた35年という月日の素晴らしい活動に敬意を表したいと思います。久しぶりに神山さんにお会いできてとてもうれしかったです。

さて、9月1日は『防災の日』でした。防災の日は「政府、地方公共団体等諸機関をはじめ、広く国民が台風、高潮、津波、地震などの災害についての認識を深め、これに対処する心構えを準備する」ための防災啓発デーと定義され、1960年・昭和35年に制定されました。

ご承知のとおり、今からちょうど100年前、1923年・大正12年9月1日に発生した関東大震災にちなんでこの日が選ばれました。関東大震災の死者・行方不明者は推定10万5,000人ともいわれ、明治以降の日本の地震被害としては最大規模の被害でした。

茨城県が刊行した「茨城県史」によりますと、関東大震災では茨城県内で38人がけがをし、5人が亡くなったということです。全壊した家屋は478棟、半壊は568棟に上り、建物被害の多くは当時の結城郡の鬼怒川と小貝川の間の地域に集中したそうです。

ロータリーの友、今月9月号の16-17ページにも『関東大震災から100年 ねがう、おくる、ふりかえる～Rotary Homeをたずねて』と題して特集が組まれております。

記事の一部をご紹介します。

関東大震災当時のガイ・ガンディガーRI会長(ペンシルバニア州・フィラデルフィアRC)は『関東一円は壊滅的な状況』との一報に大阪RCを受取窓口と定め、まず2万5,000ドルをお見舞いの電報と共に送付。続いてシカゴRC、サンフランシスコRC、ニューヨークRCなど、世界各国503クラブから寄せられた救援金は、東京RCによれば「約8万9,000円」となっています。

東京RCは10月10日には例会を再開し、11月14日の例会で、理事会は救援金の使途を複数検討、市営東京孤児院への寄付も決め、孤児院の敷地内に新棟1棟の寄贈を決議し、入居対象は年長女子児童、ミシンを使った裁縫を教える、職業教育を行うこととしました。

設計は建築家・清水建設社長の清水釘吉(ていきち)会員。180坪の鉄筋コンクリート造2階建てで、さまざまな機能と設備、姿見や時計といった小物にまで気配りされた、最新式の建造物で費用は3万7,000円という記録が残っています。1924年10月10日に完成し『Rotary Home』と名付けられました。

その後戦争により、名前も消え、建物も空襲で失われてしまいましたが、今回この記事を読み、この忘れてはいけないロータリーの素晴らしい事業のことも、ぜひこの機会に振り返ることが大切ではないかと思いました。詳しくは、今月のロータリーの友をご覧ください。

今月のロータリーの友には、以前当クラブで卓話をいただきました、フリーアナウンサーの梶間順子さん(浦和中RC)のレポート記事も掲載されております。こちらもぜひお読み下さい。

今年は台風も多く、心配です。防災を意識して、日々備えていきましょう。

会長挨拶は以上となります。



理事会報告

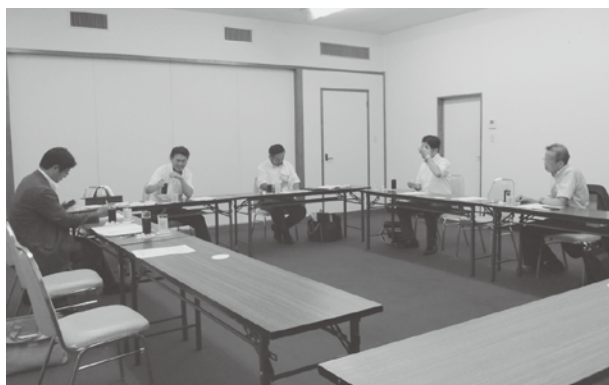
堀江 勤 幹事



- ①この指とまれ 他提唱クラブ協賛の件
- ②ウクライナ支援事業への支援の件
会員1人 @1,000円 ¥10,000 クラブより
- ③秋田豪雨災害支援の件 会員1人 @1,000円

【お知らせ】

- ・10/4(水)11:30 第4回理事会
- ・神山バレエパフォーマンス支援金結果 61,747円
- ・8/25(金)地区補助金決定通知
282,000円(\$2,000)
- ・9/20(水)青年の主張大会 下館中学校
- ・9/20(水)情報委員会 やまき 18:30
- ・10/1(日)10:30 奉仕プロジェクトリーグ
職業・社会・国際 ホテル日航つくば
- ・11/15(水)説明会



幹事報告

堀江 勤 幹事

○配布物

- ・9月・10月・11月・12月プログラム
- ・23-24 2820地区大会開催の案内

○ガバナー事務所より

- ・ロータリー地区補助金 決定及び入金 282,000円
- ・月信10月号原稿 提出

- ・地区大会開催の案内 受理 11月5日 水戸市民会館
- ・大高司郎ガバナーエレクト事務所開設の案内 受理
- ・第2回ガバナー補佐総括合同会議開催の案内 受理
9/23(土)ホテル テラス・ザ・ガーデン水戸

ロータリー財団研究会報告

堀江 勤 幹事

2023年7月22日に、ここダイヤモンドホールにおきまして「ロータリー財団研究会」が開催され、私が出席して参りましたので、その報告をさせていただきます。

大久保ガバナーによる点鐘の後、ご挨拶をいただき、その後に総括委員長挨拶ということで、ロータリー財団担当カウンセラーであり、総括委員長でもある新井和雄さんより、挨拶とともにウクライナ支援の現状についてご説明がありました。



詳しく、この後時間があれば、新井さんより補足・説明をいただければと思います。

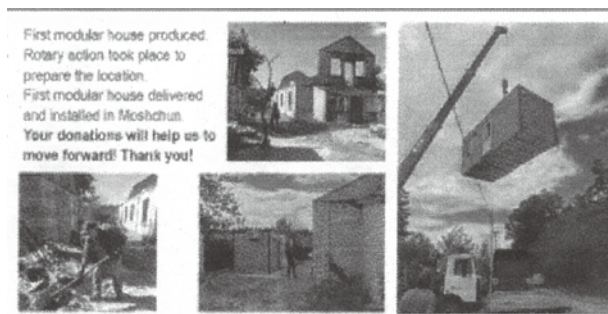
「ウクライナは今」「ロータリーの人道支援活動」というテーマで説明がありました。そもそも、「なぜ、ロータリーがウクライナを支援することになったのか？」それは、新井さんがガバナーだった21-22年度に行った地球環境保全グローバルプロジェクト、つまり当時皆で行った海岸清掃のときに、ウクライナも参加してくれたことに始まります。

ロシアがウクライナを侵攻してまもなく、新井さんのところに突然、ボンダレンコ ガバナーよりSOSのメールが届きました。それを受けて、新井さんの独自事業である海岸清掃にウク



ライナも参加してくれたお礼として、「生活物資配給所」を立ち上げ、まずは紛争難民の命を救うということで、2820地区の緊急人道支援が行われました。

その後、新井さんが21-22年の同期のガバナーにウクライナ支援を呼びかけて、何度かZOOM会議を開催し、ウクライナに対して、どのような支援を行うかを話し合い、災害救助補助金を活用した支援を行おうということで、「チームジャパン」が再び結成されました。



そして、災害救助補助金を活用した支援ということで、まず特殊車輛支援プロジェクトを行いました。はしご車やクレーンなどを現地へ派遣し、支援活動を行いました。次に行ったのが、ムシュン村復興プロジェクトとして、このムシュン村に仮設住宅を建てました。物資はいろいろな方面から支援があり、十分だったので、次は住むところを確保ということになりました。当然、建物は破壊され、多くの人々が住みまで失っていました。避難所が設けられていますが、やはり避難所ではプライバシーも何もなく、十分休める場所ではないため、少しでも安心して生活を送る為に、とりあえず仮設住宅を作ろうということになりました。このようにして2820地区のウクライナ支援が始まりました。これを受けて、本年、大久保ガバナーは、ウクライナ支援として「女子のエンパワーメントと子どものメンタルヘルス」を行っております。

まず、「女子のエンパワーメント」としては、「女子のリーダースhipスクール」を行っています。また、「子どもたちのメンタルヘルス」としましては、紛争で親を亡くした子どもたちを集めて折り紙教室を開催したりして、子どもたちのメ

ンタルヘルス支援を行っています。そして、ウクライナ女子エンパワーメントプロジェクト感謝状贈呈ということで、当下館クラブも、新井総括委員長より感謝状をいただきました。新井さん、ありがとうございました。

その後、第1地域ロータリー財団 地域コーディネーター補佐である千葉RCの梶原等氏より、「ロータリー財団の最新情報」というテーマで講演をしていただきました。

まず初めに、ゴードン・マッキナリーRI会長の方針について説明がありました。

つまり、彼は「持続可能な良い変化を生み出す」というロータリービジョン声明を「希望を生み出す」ことによって、人々が手を取りあって行動する世界を目指すとなりました。

次に、ロータリー財団の役割として「ファンドレイジング(寄付の推進)」と「補助金プロジェクトへの参加支援」が大切であるということでした。

そして、ロータリー財団の新たな目標として「ロータリー財団は2025年までに恒久基金の「純資産」と「寄付の制約」の合計を、20億2,500万ドルにする」という目標を立てました。

その目標達成のために、23-24年度は皆さんもご存じの通り、

- ・年次寄付・・・1人150ドル以上
- ・ポリオ寄付・・・1人30ドル以上
- ・恒久基金・・・冠名基金 各地区1件以上
- ・大口寄付・・・1万ドル以上の寄付を100件以上などとなっております。

次に、ポリオ根絶へのチャレンジということで、ポリオの説明やポリオプラス、補助金の説明があり、そして、RI2790地区(千葉県)が世界ポリオデーに、成田国際空港で行ったイベントの紹介がありました。このイベントを開催した結果として、

- ・地区内ロータリアンに対し、ポリオプラスプログラムの周知・認知ができた。
- ・その数、ロータリアン300人、成田国際高校の生徒100人、その他を含めて総勢500人以上のイベントを開催することができた。



・次世代の子どもたちに、ポリオ根絶プログラムを伝えることができたなど、多くの成果を得ることができたそうです。

そして、最後に「ロータリーの大いなるパワーを実感することができました。ロータリアンの行動力や人脈、また奉仕精神による総合パワーの大きさを再認識することができました。ポリオ根絶を1985年に掲げた国際ロータリーは、今日まで不可能を可能にしてきました。世界中の子どもたちと約束した根絶までの道を、多くのロータリアンと共に歩いていくことができるはずです。」として、午前の部は終了しました。

午後はまず初めに、ポリオについての説明がありました。皆様もご存じの通り、「ロータリーは1985年に創設されたポリオプラスプログラムを通じて、“ポリオの無い世界”というビジョンを描き、1988年からWHO(世界保健機構)やユニセフなどと一緒に世界ポリオ根絶推進活動をスタートさせました。

当時は、世界125カ国において、1日約1,000人、年間35万人の子どもが“身体麻痺”を発症し、亡くなる子どももたくさんいました。その後、ロータリアンが35年間に渡って30億人以上の子どもたちにワクチン接種を行ってきた結果、多くの子どもたちが救われ、身体麻痺を患うことなく元気に育っております。現在は、全世界の99.9%まで根絶することができ、あとアフガニスタンとパキスタンだけが残っております。この2カ国を撲滅できれば、全世界でポリオを根絶できるという状況までできました。あと少しです。引き続きご協力をお願いします。

そもそも“ポリオ”とは、ということで資料をご覧ください。「ポリオに関する事実」が書いてあります。

1. ポリオに感染しやすいのは5歳未満の子ども
2. 治療法はないが、ワクチンで予防が可能
3. ポリオウイルスの常在国はわずか2カ国
4. 1985年以来、発症率は99.9%減少
5. ポリオを永久になくさない限り、感染リスクは全世界の子どもに

次に、「根絶する5つの理由」として、

- ①生活の向上
- ②未来への投資
- ③子どもの健康を向上
- ④医療費の削減
- ⑤歴史をつくる、

の5つが挙げられています。

そして、毎年10月24日は「世界ポリオデー」とされておりますが、この2820地区でも、各クラブでポリオ根絶イベントが開催されており、我が第5分区でも、皆さんにもご協力頂きましたが、7月27日～29日の3日間「下館祇園祭り」において、下館RCを中心に分区内の各クラブと共にイベントが開催されました。

さらに、下館RCの独自事業として、8月27日に「神山芳子バレエパフォーマンス」の会場にてイベントを行いました。多くの皆様に参加して頂き、また寄付まで頂き、ご協力に深く感謝いたします。



毎年10月24日は
世界ポリオデー

世界ポリオデーにちなんだ
イベントをしよう！

次に、「地区補助金」について、その申請状況についての説明がありました。本日の資料を見ていただければ分かる通り、2820地区では2年続けて55クラブ中、全55クラブが申請しているという、大変優秀な地区となっております。引き続きのご協力をお願いしますとのことでした。

また、使用可能補助金総額は、11,845,056円なのに対して、希望補助金総額は、それを上回る12,075,986円となっております。その補助金事業の内訳としては、「青少年奉仕」が全体の30%、次に「地域経済の発展」が20%、「環境保全」が16%、以下ご覧の通りとなっております。



ちなみに、我が下館RCが毎年申請している「母子島遊水地 / 環境保全事業」ですが、先日その決定通知がありまして、希望補助金270,200円に対して、282,000円(2,000ドル)の補助金をいただけることになりました。

次にグローバル補助金について、その内容説明後、申請状況についての説明がありました。ただ、当時の資料が小さすぎて、具体的な数字が見えなかったので、今回は説明を割愛させていただきます。何かの機会に説明できればと思います。

申請状況	
・申請クラブ数	2820地区55クラブ中 55クラブ (2年連続全クラブ申請達成！)
・申請事業数	56事業 (地区申請事業1) (前年度比100%)
・使用可能補助金総額	11,845,056円 87,096ドル (5月 ¥136/\$) (前年度比100%)
・事業総額	34,502,816円 (前年度比146%)
・希望補助金額(総額35%)	12,075,986円 (前年度比160%)

今年度は、事業規模が大きな事業が目立ち、使用可能補助金額を上回る申請を頂きました。

大久保年度 目標寄付額



年次寄付 150ドル以上
ポリオ 30ドル以上
会員1人あたり 180ドル以上
(世界で良いことをするために寄付ゼロ・クラブは無くしましょう)

ウクライナ支援 1,000円
恒久基金(ベネファクター) 1,000ドル
(1クラブ1名以上お願いします)

ポールハリスソサイエティ 1,000ドル以上
(年次+ポリオ+指定寄付≥毎年1,000ドル 100名維持)

Rotary

その後、「グローバル補助金奨学金の活用について」、「VTTについて」、「年次基金と恒久基金への寄付・PHSについて」、「ロータリー平和フェロシップについて」、「ロータリーカードについて」の説明がありましたが、私自身はすごく勉強になりましたが、皆様方には「今

さらながら」というところもありますので、説明は割愛させていただきます。

最後に、大久保ガバナーの「本年度の目標寄付額」を改めて示させていただきました。

まず、「年次寄付；1人当たり150ドル」、「ポリオ30ドル」の「合計；会員1人当たり180ドル以上」かつ、寄付ゼロ・クラブはゼロ。

次に、「ウクライナ支援；1人当たり1,000円」、恒久基金(ベネファクター；1,000ドル)を1クラブ1名以上、ポールハリスソサイエティ(1,000ドル)の100名の維持となっております。引き続きご協力をお願い致します。以上です。

紙面の都合上、社会奉仕研究会報告は次週掲載致しますのでご了承下さい。

スマイルBOX 鈴木健一 副委員長

お祝い事

会員誕生 関谷 徹さん・中里泰久さん

- ▶宮田 憲一さん 本日は研究会報告 宜しくお願ひいたします。秋が待ち遠しいです。
- ▶堀江 勤さん 本日、ロータリー財団研究会報告させて頂きます。宜しくお願ひします。
- ▶潮田 武彦さん 本日は、理事会のみで失礼します。
- ▶永井 啓一さん 早瀬委員長、堀江幹事、研究会報告 宜しくお願ひします。
- ▶松浦 真也さん 早瀬委員長、堀江幹事、研究会報告 宜しくお願ひします。

本日の合計 23,000円 累計 140,000円

出席報告

会員数	出席数	欠席数	病欠	免除
20	11	4	1	4



ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理想を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある：

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること；
- 第2 職業上の高い倫理規準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること；
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理想を实践すること；
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。